

小規模事業者経済動向調査 概要版

(VOL. 3 平成29年6月調査)

平成29年7月、第3回「小規模事業者経済動向調査」を実施し、その結果をとりまとめましたので以下ご報告いたします。

調査概要

(1) 調査目的

本調査は、市内の小規模事業者の経営動向を把握し、適切かつ効果的な経営サポートを推進する基礎資料として活用することを目的とする。

(2) 調査時期

調査対象時期：平成29年1月～6月実績及び平成29年7月～12月見通し

調査期間：平成29年7月27日～平成29年8月16日

(3) 調査方法

仙台商工会議所の小規模事業所リストから、産業別は無作為抽出した市内の小規模事業所2,000社に対し、調査票を郵送にて送付・回収した。

(4) 回収状況

業種	対象事業所数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
総計	2,000	935	46.8
製造業	150	65	43.3
非製造業計	1,850	870	47.0
建設業	560	285	50.9
運輸業	40	27	67.5
卸売業	110	50	45.5
小売業	300	132	44.0
宿泊・飲食サービス業	120	49	40.8
不動産業・物品賃貸業	240	101	42.1
サービス業（個人向け）	140	73	52.1
サービス業（法人向け・ほか）	340	153	45.0

ODIについて

DIとは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略であり、「良い／悪い」「増加／減少」などの定性的な判断を指標として集計・加工した指数である。分析にあたっては、DI値のみではなく、回答の構成比、前回調査からのDI値の変化に留意する必要がある。

○仙台市企業経営動向調査について

本概要版で参考として記載している「仙台市企業経営動向調査」は、仙台市経済局が市内の経済動向を把握するため四半期ごとに実施している調査で、仙台市内の大・中・小規模事業所1,000社を対象としている。

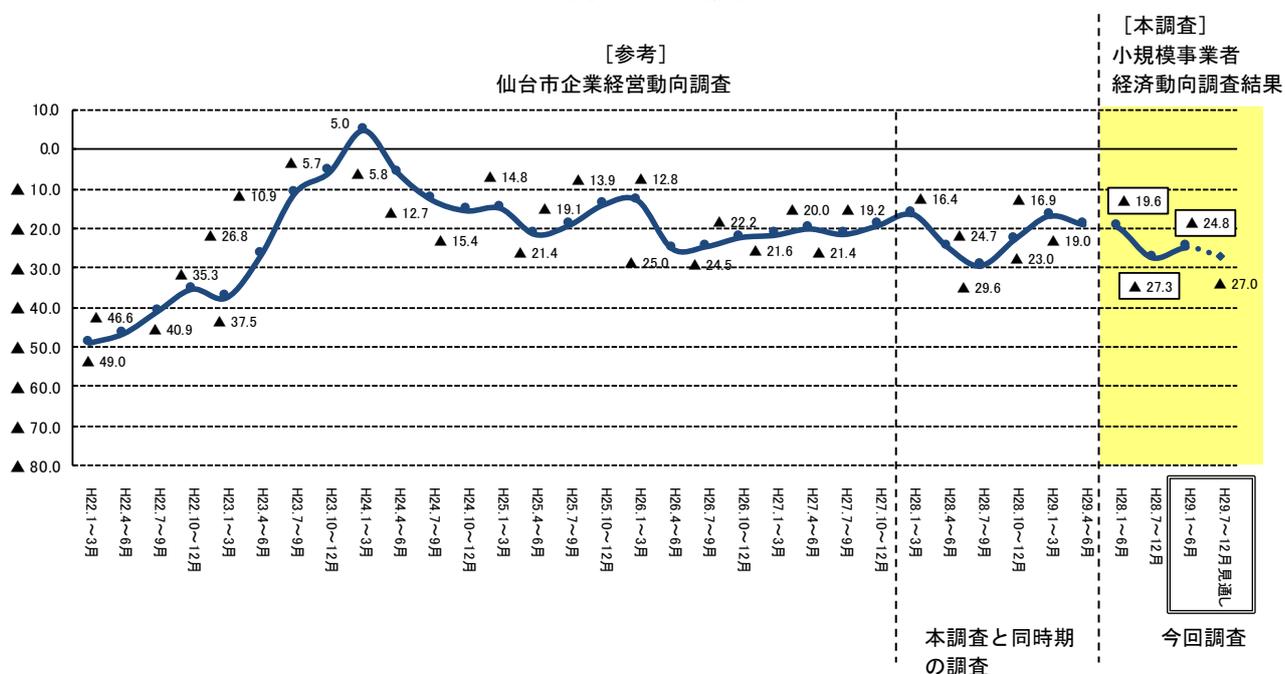
調査結果の総括

～今期の業況DIは▲24.8と上昇、来期は下降の見通し～

今期（平成29年1～6月）の業況（業況の良し悪し）DIは、▲24.8となった。前期調査（平成28年7～12月）の業況DI▲27.3と比較して2.5ポイント上昇した。参考として、「仙台市企業経営動向調査（平成29年1～3月）」の業況DIと比較すると、7.9ポイント低い結果となっている。業種別にみると、卸売業と小売業では下降し、運輸業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。特に、宿泊・飲食サービス業、不動産業・物品賃貸業、サービス業（個人向け）は、10ポイント以上の改善がみられた。

先行きについては、来期（平成29年7～12月）の業況DIは▲27.0と、今期と比較して2.2ポイント下降する見通しである。業種別にみると、運輸業、小売業、宿泊・飲食サービス業、サービス業（個人向け）では上昇し、これら以外の業種では下降する見通しとなっている。

業況判断DIの推移



～続く「売上・受注の停滞、不振」～

経営上の課題については、今期も製造業、非製造業ともに、「売上・受注の停滞、不振」が最も多く、それぞれ61.5%、40.1%となっている。「仙台市企業経営動向調査（平成29年1～3月）」と比較すると、製造業では7.6ポイント、非製造業では3.7ポイント高くなっている。2位は「競争の激化」でいずれも30.8%となった。

以下、製造業では「設備・店舗等の老朽化又は狭さ（26.2%）」、「求人・人材難（24.6%）」、「原材料・仕入製（商）品高（21.5%）」、非製造業では、「求人・人材難（28.9%）」、「諸経費の増加（22.1%）」、「設備・店舗等の老朽化又は狭さ（16.7%）」と続いている。

＜小規模事業者経済動向調査結果（D I）の総括表＞

今回調査の結果(DI値)

調査項目(DI)	今期実績(前期実績との比較)		来期見通し(今期実績との比較)	
	傾向	DI値	傾向	DI値
売上高	上昇した	▲20.2	下降する	▲22.2
販売数量	上昇した	▲23.0	横ばい	▲23.0
経常利益	上昇した	▲24.5	下降する	▲25.6
製(商)品単価	ほぼ横ばい	10.3	下降する	8.3
原材料(仕入)価格*	ほぼ横ばい	10.3	ほぼ横ばい	10.3
製(商)品在庫*	上昇した	▲23.5	—	—
労働力*	下降した	▲23.5	—	—
生産・営業用設備*	上昇した	▲23.5	—	—
資金繰り	上昇した	▲23.5	—	—
金融機関の対応	ほぼ横ばい	10.3	—	—
正規従業員数	上昇した	▲23.5	—	—
非正規従業員数	下降した	▲23.5	—	—
生産・営業用設備(予定)	下降した	▲23.5	—	—
事業者の業況 (業況の良し悪し)	上昇した	▲23.5	下降する	▲23.5
事業者の業況 (業況の変化)	上昇した	▲23.5	—	—

※D I = 「上昇」(「増加」、「過剰」、「緩い」、「増員」、「増強」、「良い」、「好転」) と答えた事業者の割合 (%) - ▲「下降」(「減少」、「不足」、「厳しい」、「減員」、「縮小」、「悪い」、「悪化」) と答えた事業者の割合 (%)

※表中の*印を付した項目は、D I 値が小さい方が好況である。

上昇
 横ばい・ほぼ横ばい
 下降

＜業況判断（事業者の業況）D I の動向＞

業種	今期実績	来期見通し	業種	今期実績	来期見通し	業種	今期実績	来期見通し
製造業	↑	↓	卸売業	↓	↓	不動産業・物品賃貸業	↑	↓
建設業	↑	↓	小売業	↓	↑	サービス業(個人向け)	↑	↑
運輸業	→	↑	宿泊・飲食サービス業	↑	↑	サービス業(法人向け・ほか)	↑	↓

上昇
 横ばい・ほぼ横ばい
 下降

※D I = 「良い」と答えた事業所の割合 (%) - 「悪い」と答えた事業所の割合 (%)

※表中の「今期」はH29年1～6月を、「来期」はH29年7～12月を表す。

※本調査における業況判断（事業所の業況）D I とは、設問6-1＜今期の事業所の業況（業況の良し悪し）D I＞をいう。

調査結果の概要

- 今期の売上高のD I は▲20.2（前期比+3.3）と、平成28年12月調査（以下、「前回調査」）時の平成28年7～12月期（以下、「前期実績」）D I の▲23.5 と比べやや上昇した。業種別では、建設業、小売業及びサービス業（個人向け）では下降し、サービス業（法人向け・ほか）ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。来期は▲22.2 とやや下降する見通しである。
- 今期の販売数量のD I は▲23.0（前期比+4.2）と、前回の▲27.2 と比べやや上昇した。業種別では、小売業及びサービス業（個人向け）では下降し、建設業及びサービス業（法人向け・ほか）ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。来期は▲23.0 と横ばいの見通しである。
- 今期の経常利益のD I は▲24.5（前期比+2.3）と、前回の▲26.8 と比べやや上昇した。業種別では、建設業、小売業及びサービス業（個人向け）では下降し、運輸業及び卸売業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。来期は▲25.6 とやや下降する見通しである。
- 今期の製（商）品単価のD I は10.3（前期比+0.3）と、前回の10.0 と比べほぼ横ばいとなった。業種別では、製造業、不動産業・物品賃貸業及びサービス業（法人向け・ほか）では下降し、運輸業では横ばい、これら以外の業種では上昇した。来期は8.3 とやや下降する見通しである。

- 今期の原材料（仕入）価格のD Iは31.6（前期比▲0.8）と、前回の32.4と比べほぼ横ばいとなった。業種別では、建設業及びサービス業（個人向け）では上昇し、宿泊・飲食サービス業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では下降した。来期は30.8とほぼ横ばいの見通しである。
- 製（商）品在庫のD Iは1.5（前期比+1.5）と、前回の0.0と比べやや上昇した。業種別では、建設業、サービス業（個人向け）及びサービス業（法人向け・ほか）では下降し、小売業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。
- 労働力のD Iは▲31.4（前期比▲1.9）と、前回の▲29.5と比べやや下降した。業種別では、建設業、運輸業、小売業及びサービス業（個人向け）では下降し、製造業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。
- 生産・営業設備のD Iは▲20.8（前期比+1.4）と、前回の▲22.2と比べやや上昇した。業種別では、建設業、宿泊・飲食サービス業、不動産業・物品賃貸業及びサービス業（法人向け・ほか）では上昇し、これら以外の業種では下降した。
- 資金繰りのD Iは▲30.5（前期比+1.2）と、前回の▲31.7と比べやや上昇した。業種別では、運輸業、卸売業、小売業及びサービス業（法人向け・ほか）では下降し、不動産業・物品賃貸業では横ばい、これら以外の業種では上昇した。
- 金融機関の対応のD Iは1.9（前期比▲0.8）と、前回の2.7と比べほぼ横ばいとなった。業種別では、製造業、建設業、卸売業及び小売業では上昇し、これら以外の業種では下降した。
- 正規従業員数のD Iは19.3（前期比+1.1）と、前回の18.2と比べやや上昇した。業種別では、製造業及びサービス業（個人向け）では下降し、建設業及び卸売業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。
- 非正規従業員数のD Iは8.7（前期比▲2.9）と、前回の11.6と比べやや下降した。業種別では、運輸業、卸売業及び小売業では上昇し、宿泊・飲食サービス業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では下降した。
- 生産・営業用設備（予定）のD Iは11.3（前期比▲2.0）と、前回の13.3と比べやや下降した。業種別では、製造業、小売業及び宿泊・飲食サービス業では上昇し、これら以外の業種では下降した。
- 今期の事業者の業況（今期業況の良し悪し）のD Iは▲24.8（前期比+2.5）と、前回の▲27.3と比べやや上昇した。業種別では、卸売業及び小売業では下降し、運輸業ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。来期は▲27.0とやや下降する見通しである。
- 事業者の業況（業況の変化）のD Iは▲15.4（前期比+6.8）と、前回の▲22.2と比べ上昇した。業種別では、小売業では下降し、建設業及びサービス業（法人向け・ほか）ではほぼ横ばい、これら以外の業種では上昇した。
- 経営上の課題の第1位から第3位までを合算して集計を行うと、「売上・受注の停滞、不振（41.6%）」を挙げる事業者が最も多かった。以下、「競争の激化（30.8%）」、「求人・人材難（28.6%）」、「諸経費の増加（21.7%）」、「設備・店舗等の老朽化又は狭さ（17.3%）」、「資金繰り・金融難（16.8%）」の順となっている。

業種別調査結果（D I）の詳細、主要経済指標などを記載した報告書については、仙台商工会議所HP内の「会議所インフォメーション」および「要望・提言・調査」に掲載しております。

【発行 仙台商工会議所】

〒980-8414 宮城県仙台市青葉区本町2-16-12 TEL : 022-265-8127 FAX : 022-214-8788